

## 那賀町地域再生塾

### 事業のポイント

■ 那賀町で活動している「地域再生塾」に更に学習の機会を提供し、より効果的な市民活動となり積極的な展開を促すほか、那賀町と連携した地域活性化に取り組む。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

那賀町の地域再生塾は、地域再生塾の塾生(那賀町民)で組織する「地域再生塾丹生谷応援団」と協働し、活動を指導、支援することを通して、那賀町における地域再生人材育成と地域の活性化を図ることを目指している。

#### 2. 事業の取組状況

令和2年4月30日、メンバーの新旧交代式が挙行され、平成30年より那賀町で町おこしに取り組む若手の団体「那賀人-Nacord-」と協働していくこととなった。

#### ● ゆず絵本プロジェクト

2019年度より『ゆず絵本プロジェクト』を立ち上げ、那賀町の特産農産物である「木頭ゆず」に関する情報を子どもたちへと伝えるための絵本作りを開始している。

地域再生塾丹生谷応援団で作成した「ゆずばあちゃん」を活用するとともに、新たにキャラクターを加えながら、木頭果樹研究会による『ユズロードを求めて：木頭ゆずの起源』や『ユズの大バカ』に挑戦した人々』といった文献に基づき、鋭意作成中である。将来的には、子どもたちが「木頭ゆず」について学ぶための一助となることを目指している。作成にあたっては、木頭果樹研究会の谷様や柚冬庵の榊野様など、地域の皆様から柚子についてご教示いただいている。



### 事業代表者・連絡先

田中 俊夫 (人と地域共創センター・センター長)  
〒771-5406 那賀郡那賀町延野字王子原31-1  
tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880  
e-mail: cr-office@tokushima-u.ac.jp

### 3. これまでの取組状況

#### ① ゆずばあちゃん

那賀町の特産農産物「木頭ゆず」を町のイメージキャラクター化した「ゆずばあちゃん」や町名を活かしたキャッチフレーズ「なかは なかなか いい いなか」を提案、町内の観光施設鷲の里の観光案内板等に採用されている。また、ゆずばあちゃんの着ぐるみは交通安全キャンペーンや町内外の催しで活用されている。

#### ② はんごろし

地域で使われてきた「おはぎ」の呼称を復活させた「はんごろし」は、町外イベントでも早々に売り切れ、町内の和菓子店に町外からの引き合いがあるなど、地域発の名物としての評判が定着している。

#### ③ かきまぜ

郷土料理の「かきまぜ」を「柚子酢(木頭柚子の果汁)を使ったちらし寿司」と定義してPRしたところ、「かきまぜ丼」「かきまぜセット」等の名称で提供する飲食店(道の駅 鷲の里・菩提樹)も出てきている。

#### ④ なかはなかなかいいいなかAR写真展

AR技術を活用し、那賀町の観光名所等を紹介するAR写真展を、主に那賀町内のイベントや道の駅で開催している。

#### ⑤ 棚田復活への挑戦

耕作放棄された那賀町相名の棚田の復活を目的として、4年間田植え体験等の試みを実施してきたが、イノシシによる獣害や担い手不足等の課題の克服が困難であり中止となった。

#### ⑥ 丹生谷秘帖プロジェクト

四国霊場の第21番札所「太龍寺」を訪れる観光客に、奥の院「黒瀧寺」を参詣する観光ルート提案し、那賀町深部まで誘導する丹生谷秘帖プロジェクトとして、AR(拡張現実)技術を活用した高札看板の設置、「丹生谷秘帖3Dトリックアート看板」の設置、巻物を模した観光案内パンフレット「丹生谷秘帖」の制作を行った。

#### ⑦ 那賀町PRビデオの制作

平成29年に「那賀町探訪 ～水崎廻り 新四国 同行二人～編」、平成30年に「那賀町探訪 ～太龍寺から奥の院 黒瀧寺へ!～編」、令和元年に「那賀町探訪 ～モノとマヒナの夏休み編～」を制作。平成29、30年のPRビデオは徳島県が開催する「ICT(愛して)とくしま大賞」で奨励賞を受賞した。動画はYouTubeでも公開している。

## 上勝学舎

### 事業のポイント

■ 四国で最も人口の少ない町上勝町において、持続可能な地域づくりのため徳島大学と上勝町との包括協定に基づき展開する事業。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

上勝学舎事業は、平成21年にスタートした。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため例年のような一般参加者を広く巻き込んだ活動を行うことはできなかったが、上勝町の地域課題の整理や次年度以降を見据えた新たな事業の可能性の探索を行った。具体的には、前期に上勝町における教育・子育て環境の課題意識を可視化する「かみかつで子育てワークショップ」を開催した。また、後期には「E-Bikeを活用したニューノーマル時代の体験型観光開発」を目的とし、観光プログラムの開発、試走を行った。

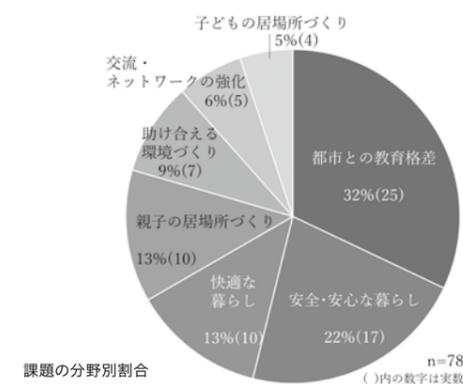
#### 2. 事業の取組状況

##### ① かみかつで子育てワークショップ

「かみかつで子育てワークショップ」は、上勝町において森林教育に取り組む(一社)上勝里山倶楽部とまちづくり会社である(同)RDNDと連携し、2020年6月21日(日)に開催した。午前中はこどもと保護者の 피자作りWSを行い、13時～15時に子育てWSを実施した。参加した上勝町在住の保護者11名とともに、暮らしの中で感じる不安や悩み事についてディスカッションを行い、課題の整理を行い報告書としてまとめた。



WSの様子



### 事業代表者・連絡先

田中 俊夫 (人と地域共創センター・センター長)  
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1  
tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880  
e-mail: cr-office@tokushima-u.ac.jp

#### ② E-Bikeを活用したニューノーマル時代の体験型観光開発支援事業

近年、観光スタイルが買い物主体の「モノ消費」から、体験型観光の「コト消費」へとシフトしており、そのひとつとして自転車を活用した観光地域づくり、サイクルツーリズムの振興が全国各地で取り組まれている。新型コロナウイルスの影響で観光施策の多くは中断しているが、自転車での観光は密になりにくく、さらなる注目が集まる。

本事業ではこうした背景をもとに、近年導入が進むE-Bikeを活用し、その可能性の調査を行った。今年度は12月12日、21日に上勝町での模擬ツアーの試走を関係者で行い、次年度以降の本格的なプログラム開発に繋げるため、課題の抽出と改善点の検討を行った。



E-Bikeを用いた試走の様子



上勝町ゼロ・ウェイストセンターの見学

## 徳島大学・美波町地域づくりセンター

### 事業のポイント

■人口減少、津波防災などの課題を抱える美波町において、大学、地域行政、住民との連携を推進し、美波町における地域づくりをすすめることで、大学における地域貢献拠点としてのモデル発信を目指す。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

当センターは、2013年7月に、徳島大学と美波町との「持続可能なまちづくり」をテーマとした連携協定の活動拠点として、美波町役場由岐支所3階に開設した。徳島大学と美波町が連携し、知的・人的資源の活用と交流を図り、相互に協力して地域の発展と人材の育成に寄与する。

#### 2. 事業の取組状況

##### ① 研究員が駐在し研究活動の実施

当センター事務室に研究員が駐在し、美波町由岐湾内地区における事前復興まちづくり活動の参与型分析を行っている。令和2年度は、台湾建築学会、日本計画行政学会第43回全国大会で研究発表を行った。また、日本学術会議主催学術フォーラム・第11回防災学術連携シンポジウム「東日本大震災からの十年とこれから—58学会、防災学術連携体の活動—」に寄稿した。なお、研究発表「井若和久・山中英生：徳島県美波町における事前復興まちづくりに関する住民意識調査」で、2019年度日本環境共生学会学術大会口頭発表優秀発表賞（個人の部）を受賞した。

##### ② 持続可能なまちづくりに関するシンポジウムの開催

持続可能なまちづくりの啓発や交流を兼ねたミニシンポジウムを開催している。令和2年度は、オンライン講演会「徳島県の災害ケースマネジメントをどう進めていくか? (第2回)」(3月6日、参加者50名)、オンライン連続講演会「東日本大震災10年の教訓を徳島でどう活かしていくか?」(3月5日、12日、16日、23日、30日)を開催した。

##### ③ 『美波共創塾』の運営

令和元年度より、美波町と徳島大学が協働で、「美波町の将来像を実現するために、多様な主体と新しい価値を共に創り上げていくオープンな場」として、『美波共創塾』の運営を行っている。令和2年度は、(1)地域自治を担うリーダー育成において、地域住民を対象に『美波共創塾』の募集を行い、15名の塾生と「地域づくり勉強会・情報共有会」を開催した(11月30日、1月29日、3月26日)。(2)地域住民と協働する職員育成において、「美波町役場新型コロナウイルス感染症の対応に関するヒアリング調査」や『美波共創塾通信』(No.1~3)の発行を行った。(3)地域の宝である次世代育成において、由岐小学校5・6年生及び日和佐小学校5年生を対象に、総合的な学習の時間を活用した年間カリキュラムを作成、計16回、延べ400名に授業(授業参観も含む)を行った。さらに、町外の交流・関係人口の創出において、防災視察先進地である由岐湾内地区を対

### 事業代表者・連絡先

田中 俊夫(人と地域共創センター・センター長)  
〒779-2103 海部郡美波町西の地字西地50-1  
(美波町役場由岐支所3階)  
tel / fax: 0884-70-1274  
e-mail: tokushima-minami@tokushima-u.ac.jp

象に、自主防災会並びに地域おこし協力隊と協働で視察研修パンフレットの作成を行った。

##### ④ 美波町の自主防災活動の支援

美波町自主防災会連合会及び由岐湾内3地区自主防災会連合会の事務局支援を行っている。令和2年度は、前者については、美波町避難所開設・運営訓練(11月29日)等の支援を行った。また後者については、西の地防災きずな会防災サタ(12月24日)等の支援を行った。

##### ⑤ 美波町地域づくりの支援

令和2年度に発足した美波町由岐湾内地区の任意団体美波のSORAに参画し、2020年度徳島県学生災害ネットワーク事業の受入等を行った。

##### ⑥ 牟岐町防災サークルの支援

牟岐町在住の小中高生や学校教員、自主防災会、徳島県南部総合県民局等と連携して発足した牟岐町防災サークルの活動支援を行っている。令和2年度は、「牟岐町避難所開設・運営訓練」(12月13日)等の支援を行った。

##### ⑦ その他(講師、委員等)

徳島県内外での防災まちづくりに関する講演会等の講師を計15回務め、また徳島県復興指針推進委員会に1回出席した。



「オンライン連続講演会」



「美波共創塾」



「日和佐小学校5年生防災学習授業参観」

## にしあわ学舎

### 事業のポイント

■にしあわ学舎は平成27年3月、三好市井川町(三好市役所 井川支所)に設置。県西部2市2町(美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町)を対象に地域を支える人材の育成や課題解決等の事業を行う。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

令和2年度にしあわ学舎事業として、日本語教育支援事業と多文化共生事業「にし阿波の魅力発見!オデオン座国際プロジェクト」を事業を通して、多様性を考える新たな地域づくりを目指す。

(担当教員: 教養教育院 教授 三隅 友子)



#### 2. 事業の取組状況

##### ●日本語教育支援事業

文化庁日本語教育スタートアッププログラムを受託(平成29-31年度)したつるぎ町教育委員会の事業を継続するものである。平成30年から活動を始めた「日本語教室」の支援、特に多文化共生を考える会「ともに」に対して日本語教育に関する情報や教室運営等の指導を行った。にしあわ地区の日本語学習者は住居や仕事場が三好市、東みよし町、美馬市にあり、他の日本語教室との連携も重要である。今年度は地域の公民館活動が許可された10月より教室を再開し、遠隔(Zoom)による勉強会や相談等も行えた。(写真は日本語教室の様子)

今後は、遠隔による日本語教育の提供や学習相談が行えないかが検討課題である。



### 事業代表者・連絡先

田中 俊夫(人と地域共創センター・センター長)  
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1  
tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880  
e-mail: cr-office@tokushima-u.ac.jp

### ●多文化共生事業

本事業ではこれまで留学生と地域の人々との異文化交流を通じて、多様な文化を話し合い、学び合うことで地域の多文化共生力を養い、産業や観光等の地域活性化に取り組んできた。今年度はコロナ禍で予定の変更を余儀なくされた「にし阿波の魅力発見!オデオン座国際プロジェクト」を、新たな取組みとして実施した。

昨年(2019年度)より、つるぎ町の実話「十六地蔵物語(75年前に大阪から疎開し、居留する真光寺の火災により終戦前に亡くなった16人の日本と朝鮮籍の子供たちの話)」を美馬市のオデオン座にて上演し、地域の在住外国人や留学生との交流を通して、観客(脇町高校生や国際交流を推進する地域の方々)と平和な社会の実現を考えることを目指している。

演劇の指導と練習も遠隔で行う中、観客を集めての演劇は無理と判断し、演劇を動画にすること、それをオデオン座から発信することにした。12月13日(日)に午後1時から、①地域に伝わる廻り踊り(十六地蔵尊縁起)の実演 ②真光寺住職の話・動画 ③「十六地蔵物語」演劇動画(演出: 仙石桂子、出演: 留学生・日本人学生・地域の有志、編集: HACHIMINE)のライブ配信が可能となった。

昨年の実際の舞台と遠隔の芝居を組み合わせた画期的な試みや配信という手法が海外を含めた観客を得たという点が新たな財産となった。今後にしあわ地区の全域を網羅し連携して続けて実施する予定である。



Zoomによる演劇



12月13日ライブ配信

配信動画URL: <https://youtu.be/UuUJHhUnta4>

# 神山学舎

## 事業のポイント

■ 神山学舎は平成27年5月、神山町(神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス)に設置。若者に魅力ある地域づくり、持続する徳島づくりの未来設計プラットフォームを目指す。

## 事業の概要

### 1. 事業の目的

令和2年度は神山学舎事業として、「宇宙ビール開発～成層圏環境を利用した地域商品開発の可能性～」セミナー及び「空想からの生き方デザイン」フィールドワーク&ワークショップを開催した。

### 2. 事業の取組状況

● 「宇宙ビール開発～成層圏環境を利用した地域商品開発の可能性～」セミナー（7月）

総合科学部 佐原准教授がこれまでに行ってきた高高度気球を用いた成層圏からの地球撮影や干物の成層圏クッキングを進展させ、酵母菌をターゲットに生命科学を専門とする東京工業大学の三木健司研究員とともに、成層圏環境へ暴露する影響について研究し、その成果について遠隔のビデオ会議を通してアウトリーチを行った。本年度のプロジェクトでは、地域に住む幅広い方々に宇宙や科学技術を身近なものに感じてもらえる機会となるために、神山ビールと共同でビール酵母を成層圏に打ち上げ、酵母菌の発酵性質の変性を確認しビールの試験生産をした。その成果を報告するとともに、「より風味の強いスパイシーなビール」となった様子等を醸造所から遠隔でライブ配信している。外部を含め数多くの参加者をいただいた。また、本研究の成果はJAXAの大気球シンポジウムでも発表され、今後のさらなる進展が見込まれる。

実際の気球打ち上げは岐阜県のベンチャー企業GOCCO.の協力のもと、6月23日に高知県より放球、31,000mに到達後徳島県東部海域に着水した。その様子をセミナーで報告している。さらに10月27日に、香良洲漁協（三重県津市）から、神山ビールの使用する酵母等をバルーンで再度成層圏に打ち上げた。ビール酵母等の酵母菌はシャーレに入れ込み、成層圏環境下の超低温、高出力宇宙線およびオゾンに暴露させ、高いストレス環境の中での変性について実験を行った。1発目は高度5,000m付近で気球の不良のため落下に転じ、伊勢湾内で回収した。2発目は静岡県沖南方で回収し、搭載した乳酸菌は成層圏の環境下でも生存し変性も確認され、実験の一部は成功した。

実験モジュールはアクリルを外環に使用し内部素材は3Dプリンターで制作し、また上下両端をタイベックで水分の侵入を遮断し通気を確保している。実験モジュールはJAXAでも動作確認を行った。さらに、こうした成層圏暴

## 事業代表者・連絡先

田中 俊夫 (人と地域共創センター・センター長)

〒770-8502 徳島市南常三島町1-1

tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880

e-mail: cr-office@tokushima-u.ac.jp

露とサンプル回収をビジネスモデルとして立ち上げ、(株)GOCCO.とともに Shuttle-D というサービスを立ち上げている。(https://shuttled.io)



JAXAの成層圏擬似環境を使用した動作確認の様子



モジュールの3Dデータ



28,000mを飛翔するモジュールの様子 (YouTube)

● 「空想からの生き方デザイン」フィールドワーク&ワークショップ（11月28日）

「空想からの生き方デザイン」は、学生を対象として自分のやりたいこと、自分にできることを神山町というフィールドで発見し、学び、実現していくプログラム。その一環として、神山でやりたいことを実現している先人達の生き方を学ぶフィールドワークとワークショップを実施した。フィールドワークでは、染め物「染昌」やゲストハウス「神山くらしの宿 moja house」等を訪問、見学した。その後のワークショップでは、空想・アイデアを広げるための「ライフストーリー・デザインゲーム」を行ない、学生がそれぞれ神山でチャレンジしてみたいことについて、ゲスト町民をまじえた座談のなかで熱心に語りあった。

